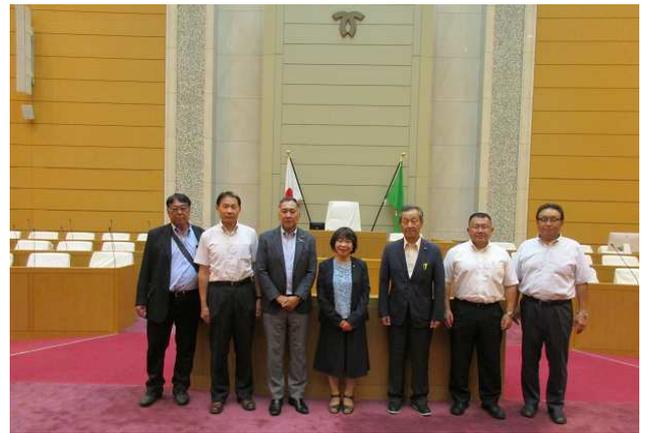


防災対策調査特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2023年7月24日（月）～25日（火）
- 2 視察先 〇兵庫県神戸市
調査事項 ・災害時における避難所運営について
【施設見学】
・人と防災未来センター（神戸市）
・北淡震災記念公園（淡路市）
- 3 視察者 委員長 上田 伴子
副委員長 太田 智博
委員 浅田 徹
委員 木谷 敏勝
委員 田中 藤一郎
委員 松井 正志
当 局 山本 尚敏（危機管理部長）
議会事務局 伊藤 八千代



神戸市役所で説明を受ける委員



神戸市会議場にて



人と防災未来センターにて



野島断層保存ゾーンの見学のように

日 時	2023年7月24日(月) 午後1時30分～午後3時05分
視 察 先	兵庫県神戸市
調査項目	災害時における避難所運営について
調査内容	<p>◎地域における要支援者支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> : 災害時における避難所運営について : H10 制定された「神戸市民の安全の推進に関する条例」について : 「福祉避難所」の整備数と収納可能率等や要援護者支援団体について : 高齢者や要援護者の把握。避難所の冷暖房設備状況。女性に対する配慮等。 <p>◎防災福祉コミュニティの形成について</p> <ul style="list-style-type: none"> : 小学校ごとの組織だが、少子化、小学校統合、人口減少等からの防災福祉コミュニティについて
所 感	<p>・今回の視察では、1995年に神戸市で発生した阪神淡路大震災という大規模災害の経験から、自然災害における備え、想定を行うことにより市民を守り、安全で安心した生活をどのように図るかなど多岐にわたり考えられていた。</p> <p>特に大規模災害の経験から防災に関する意識は高く、ハード・ソフトの面でしっかりとした運営とともに神戸市民間での共助形成が行われている。</p> <p>また、各地域における要援護者についてもさまざまな対策を図っておられ、特に昨今の傾向として、災害時における各プライバシーの確保等にも力をいれておられた。</p> <p>・避難所施設となる小中学校の体育館への空調設備についても進んでおり、豊岡市としても早急に対応すべき政策でと考えさせられた。空調設備の設置については「命を守ることが何よりも大事です。」と言われた。</p> <p>・防災福祉コミュニティの形成については、小中学校統廃合後も各学校単位での防災コミュニティを組織している。その中には、自主防災組織もあり官・民あげて取り組んでいる。また、次世代への育成事業としても防災ジュニアチームの組織化も図っていた。</p> <p>結びに、神戸市は大震災以降、"市民への安全・安心"を基本に置き、"やることは走りながらやる"という考え方で防災の取り組みをしている点は、豊岡市としても参考にしていく必要がある。</p> <p>災害はいつ何時発生するかわからない。だからこそどう備えをしていくのかが大変重要である。豊岡市もしっかりと取り組んでいくようにしなければならない。</p>

日 時	2023年7月25日(火) 午前9時30分～午後1時45分
視 察 先	兵庫県神戸市、淡路市
調査項目	人と防災未来センターならびに北淡震災記念公園現地視察
調査内容	<p>■人と防災未来センター 阪神淡路大震災の被害状況とその後の対策の観点から調査を行った。</p> <p>■北淡震災記念公園 阪神淡路大震災の震源地である野島断層の状況と震災に繋がるメカニズムの観点から調査を行った。</p>
所 感	<p>■人と防災未来センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災前後の町並みを改めて知ることができ、震災の大きさや被害状況を改めて知ることができた。 ・私たちが経験した大規模災害を次世代に語り継ぐことの大切さを改めて感じ、いっどこで発生してもおかしくない自然災害に対応する備えが改めて必要であると感じた。 ・大規模自然災害を止めることはできないが、今を生きる私たちが災害から身を守る防災意識の向上。自然災害を少しでも小規模にする減災への取り組みなど出来ることは多くある。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災を教訓としたい。 <p>■北淡震災記念公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫南部地震で出現した野島断層を見ることができ、脅威と地震に備える大切さを感じた。 ・大震災以降、建物などの耐震補強工事が実施されるなど耐震診断も実施されるようになったが、「地震に強い家」として断層から120cm離れた家屋の塀や花壇が多少の被害で済んでいる。家屋の耐震化の必要性なども感じられる良い機会となった。